

報告

“資格検定”の単位認定制度の活用と 科目開発に関する取り組みについて ～実践事例と神奈川県単位認定制度の状況～

神奈川県立横浜清陵総合高等学校教諭 五十嵐 誠
arashi50@pen-kanagawa.ed.jp

1. はじめに

自分の勉強のために始めた資格検定の受験でしたが、いくつもの資格検定にチャレンジする中で得た体系的な知識や技術が、今では科目の開発や生徒の学習指導に役立っています。その経緯と実践事例および神奈川県における「技能審査の成果による単位認定制度」について報告させていただきます。

2. 検定試験との出会い

平成12年に情報免許講習会に参加しました。その当時はWindowsの操作も未熟で、学問としてバックボーンがないこともあり、生徒にきちんと教えることができるか不安でした。しかし、その講習会で知り合った先生の紹介で、翌春の「初級システムアドミニストレータ」の受験の準備を始めると、資格取得のための勉強とはいえ、体系的な知識が身につく、それまで読んでわからなかった専門誌が少しずつ理解できるようになってきました。

これをきっかけに、自己啓発を兼ねて多様な資格試験のカリキュラムを利用して勉強してきました。知識がこなれてくるにつれ、教科指導に自信が持てるようになり、さらには科目開発のヒントにもなりました。

3. 受験指導の実践と手ごたえ

前任校である県立川崎高校が全日制と定時制が一体化した単位制高校に改編する機会に、「技能審査の成果による単位認定制度」の活用を実践す

るチャンスを得ました。

「コンピュータグラフィックス基礎」という半期1単位の学校設定科目を全日制と定時制の中間の時間帯に設置して、両課程の生徒を教えることができました。受講生のうち、特にCG関係の進学を考えていた3名にCG検定3級の受験をすすめました。この検定は1単位が認定されるもので、生徒は高いモチベーションを持って補習指導を受けました。その結果、全員が検定に合格し、卒業後は希望の分野で1名が大学に、2名が専門学校に進学しました。

夏季休業中の短期集中講座「コンピュータ技術」の受講生の希望者には、情報処理活用能力検定(J検)の3級、準2級を紹介し、合格者は級に応じて1単位あるいは2単位が認定されました。

いずれの事例も、受験希望者を集めて補習を行いました。生徒の意欲的な学習活動に接して、資格検定を目指す学習は生徒の生きる力の育成に役立つという手ごたえを感じました。もちろん合格によって得た自信だけではなく、失敗による悔しさも無駄にはなりません。

4. 資格検定の効用と扱い方

高校生一人ひとりの希望に適應した技能審査の選定と、学習指導および助言を展開することにより、授業で学習した知識をさらに深め、さらには、授業で扱えない知識・技術を補完することが可能になります。

つまり、授業を補佐するカリキュラムや教材が存在することにより、限られた授業時間の中で指導内容を精選することができるのです。

これまでの実践の経験から、受講生全員に資格検定の受験を課すのではなく、授業を受けた上でさらに高いレベルの学習を希望している生徒がいれば、適切な資格検定試験の受験をすすめ、学習目標を設定してあげることが望ましいと考えています。

5. 総合学科高校における可能性

前任校では普通科高校においても資格検定の指導で十分な学習効果を確認しましたが、平成16年度より勤務している総合学科高校においては、さらに高い学習効果の可能性を感じています。

総合学科は、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に対応して幅広い選択が可能な教育課程の編成や進路選択能力、職業観・勤労観の育成といった面で大きな成果を上げていて、今後とも高校改革の中核的な役割が期待されています。

本校の総合選択科目は「情報科学系列」「生涯スポーツ系列」「芸術表現系列」「ライフデザイン系列」「自然科学系列」「人文国際系列」の6つの系列に分類され、生徒はどの系列の科目も選択することができます。

下図は、科目のシラバスと共に生徒に示している情報に関する科目の体系図です。3つの分野に分け、上に高いレベルの科目を配置してあります。生徒は1年目から計画的に科目を選択して時間割を作成することになります。

全国に整備されつつある総合学科高校においては、このように情報に関する専門的な科目が配置される傾向ですが、生徒のニーズに応えるべくそのカリキュラムを指導するために、教員の負担は少なくありません。

先に述べた総合学科の特色をサポートするためにも、科目に関連する検定試験を紹介することで、生徒

の満足感を高めつつ、内容の精選によって科目運営の負担を軽減することができます。

「DTP入門」の授業では、画像の解像度や印刷の解像度、スキャナーの仕組みなどは扱いませんが、より高度なレベルを目指して「DTP検定Ⅲ種」を受験する生徒には実習指導をしました。その結果、合格者のうち生徒1名と教員1名が優秀成績者としてDTP検定のサイトに学校名とともに紹介されています。その他の受験者も全国の平均点をかなり上回る点数を取りました。このように授業と検定指導のコラボレーションにより生徒は確かな学力を身につけることができます。

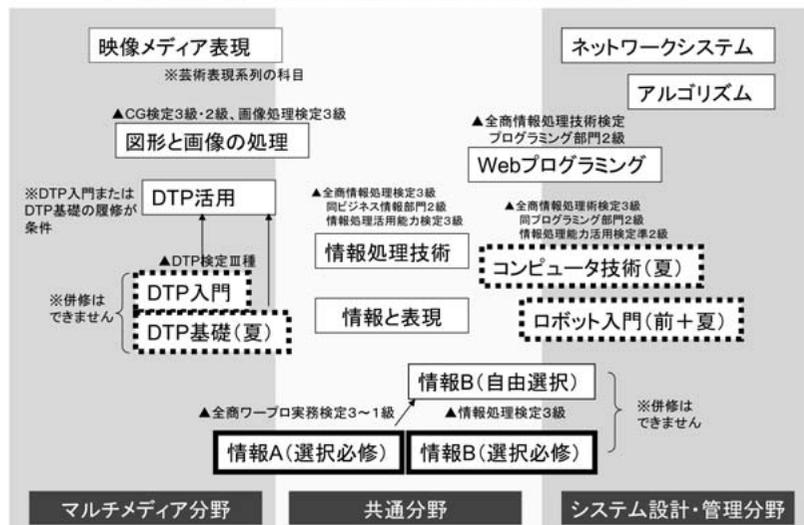
6. 今年度の資格検定の指導

本校の授業に関連付けて生徒に紹介している検定試験を紹介します。これらの検定に対しては解説書や問題集が充実しているため、学習方法をアドバイスすると生徒は独りで学習することも可能です。

①DTP検定Ⅲ種

ワープロソフト（Word）のDTP機能を利用して商業印刷物に迫る高い品質の印刷物を作成する知識を問うもので、専用のDTPソフトの基本機能への導入ともなります。「DTP入門」または短期集中講座「DTP基礎」受講の希望者が対象。

横浜清陵総合高校の情報に関する科目(体系図)



②全商ワープロ実務検定

本校の情報の授業においてはワープロの操作方法を指導しないので、ビジネス文書の作成技術を身につけたい生徒を募って対象とします。

③全商情報処理検定・情報処理活用能力検定(J検)

「情報B」「情報処理技術」「Webプログラミング」および短期集中講座「コンピュータ技術」受講の希望者が対象。

④画像処理能力検定CG部門（CG検定）

「図形と画像の処理」受講の希望者が対象。

⑤初級システムアドミニストレータ

③の検定に合格した希望者が対象で個別指導。

7. 教員の資格取得のすすめ

教員が授業と検定試験の関係をうまくコーディネートすることで学習活動の効果を高めることができるのですが、そのためには、教員が各種の資格検定のカリキュラムと難易度を研究しておく必要があります。教員間での情報収集も有効ですが、教員本人の受験体験が最も大切だと思います。

下の表に不合格だった資格検定を含めて、私の情報関係の経歴を整理してみました。振り返ると、資格取得のための勉強が科目の開発と生徒への指

導に直結していたことをあらためて感じます。各自の勉強と指導における説得力の向上のために、ぜひ情報科の先生方にも資格取得をすすめます。

8. 神奈川県における「技能審査の成果による単位認定」制度の状況

技能審査の成果による単位認定の制度は、文部科学省初等中等教育局長通知を受けて各都道府県において整備されていますが、運用方法については差があるようです。

神奈川県は、平成8年より「技能審査の成果の単位認定に係わる標準例」（以下「標準例」という）という技能審査名と対応科目、単位数の一覧表が示されています。標準例に記載された技能審査に準じて各学校が定め、示された単位数を超えない範囲で学校長が単位を認定することができます。この単位について、従来は「標準例」に示された対応科目に対して追加単位を認定するという方法でしたが、教科「学校外活動」の科目「技能審査」に対して単位を認定するという方法に移行しつつあります。

平成15年度の教科情報のスタートに先立ち、神奈川県教科研究会情報部会では教科情報にかかわ

科目開発とその背景

年度	在籍	情報関係の担当科目と単位数	生徒を指導した資格検定試験	個人的に受験した試験(▲は不合格)
H12	県立川崎高校定時制			【情報免許講習会受講】
H13		情報A②(34年選択)		初級システムアドミニストレータ 基本情報技術者 CG検定2級・MM検定2級 情報処理活用能力検定(J検)準2級・2級
H14		情報A②(34年選択+社会人聴講生) コンピュータの自作と設定①(短期集中講座)		ソフトウェア開発技術者 画像処理検定2級 ▲ドットコムマスター★★ ▲テクニカルエンジニア/ネットワーク
H15		情報A②×2(1年必修) 情報基礎A②(34年選択+社会人聴講生) コンピュータの自作と設定①(短期集中講座) コンピュータ技術①(短期集中+社会人聴講生) CG基礎①×2(半期で完結)	J検3級、準2級(校内実施) CG検定3級(校内実施) 初級システムアドミニストレータ	初級システムアドミニストレータ(再受験) MIDI検定4級 DTP検定Ⅲ種 ▲情報セキュリティアドミニストレータ
H16		情報A②×3(1年必修) 情報と表現(情報専門科目)②×2 文書デザインI(商業専門科目)②×3	DTP検定Ⅲ種(校内実施) 全商ワープロ実務検定(3級、2級、1級) 全商情報処理検定(3級、2級)	ACE検定 Illustrator CS DTP検定Ⅱ種
H17	県立横浜清陵総合高校	情報A②×3(1年必修) 情報と表現(情報専門科目)② 図形と画像の処理(情報専門科目)② DTP入門② DTP活用② DTP基礎①×2(短期集中講座) コンピュータ技術①(短期集中講座) ◇ワープロDTP(社会人対象公開講座)	DTP検定Ⅲ種(校内実施) 全商ワープロ実務検定(3級、2級、1級) 全商情報処理検定(3級、2級) CG検定3級 J検3級、準2級	

る標準例の設定と通知を求め、同年度から実現することができました。同時期に総合学科をはじめとする単位制高校が多く新設されたこともあり、「技能審査の成果による単位認定」制度を採用する学校が年々増加しています。

さらに、学校ごとに多様な科目の開発が進み、ニーズに適った技能審査の追加要望も出ているので、情報に関する資格検定について神奈川県教育研究協会情報部会で整理し、今年度の標準例の改訂をサポートしました。

9. 参考資料（抜粋）

(1) 学校教育法施行規則第63条の4

校長は、教育上有益と認めるときは、当該校長の定めるところにより、生徒が行う次にあげる学修を当該生徒の在学する高等学校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることができる。

(中略)

2 知識及び技能に関する審査で文部大臣が別に定めるものの合格に係る学修

(中略)

(2) 文部省告示第41号

(前略)

- 2 学校教育法試行規則第63条の4第2号の知識及び技能に関する審査で別に定めるものは、次に掲げる審査とする。
- 一 技能審査の認定に関する規則（昭和42年文部省告示第237号）により文部大臣が認定した技能審査で、当該審査の合格に係る学修が高等学校教育に相当する水準を有すると校長が認めたもの
- 二 前号に掲げるもののほか、次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査で、当該審査の合格に係る学修が高等学校教育に相当を有すると校長が認めたもの
- イ 審査を行うものが国又は民法（明治29年法律第89号）第34条の規定による法人その他の団体であること。
- ロ 審査の実施に関し、十分な社会的信用を得ていること。
- ハ 審査が全国的な規模において、毎年1回以上行われるものであること。
- ニ 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること。

(後略)

(3) 技能審査の成果の単位認定実施要領

(平成8年3月5日神奈川県教育長通知 改正平成17年4月1日)

(前略)

2 対象とする技能審査の種類及び対応科目等

対象とする技能審査の種類及び対応科目及び増加単位数については、別表1（技能審査の成果の単位認定に係る標準例（農業））から別表6（技能審査の成果の単位認定に係る標準例（その他の教科））の標準例（以下「標準例」という。）による。なお、文部科学省から新たなガイドラインが示された場合、学校から新たな技能審査の追加の要望があった場合には、必要に応じて検討のうえ、標準例を変更することがある。

(中略)

4 増加単位の制限等

(3) 認定する増加単位数の制限

ウ この制度によって認定できる単位数については、高等学校間の連携や課程間併修（学校教育法施行規則63条の三）と学校外における学修（同 63条の四）により認定できる単位数と合わせて、36単位以内とする（同 63条の五による）。

(後略)

(4) 技能審査の単位認定の実施状況

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/2004/036.htm

「技能審査の成果の単位認定に係る標準例」

(平成17年6月30日 神奈川県高校教育課長通知)より引用・抜粋

実施団体	技能審査の種類	級	増加単位数
(財) 全国商業高等学校協会	コンピュータ技術検定	1級	3
		2級	2
		3級	1
(財) 全国商業高等学校協会	情報処理検定	1級	3
		2級	2
		3級	1
(財) 全国商業高等学校協会	ワープロ実務検定	1級	3
		2級	2
(財) 専修学校教育振興会	情報処理活用能力検定(J検)	1級	3
		2級	2
		準2級	2
		3級	1
(社) 日本経営協会	DTP検定	I種	3
		II種	2
		III種	1
(財) 画像情報教育振興協会	画像情報技能検定CG部門(CG検定)	2級	2
		3級	1
独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)	初級システムアドミニストレータ 基本情報技術者 ソフトウェア開発技術者		3
			3
			4